

横須賀市議会議員

長谷川 昇 市政報告



2023年4月～横須賀市議会議員4期目当選
所属:民生常任委員会 所属会派:よこすか未来会議
事務所:〒240-0101 横須賀市長坂3-3-1
E-Mail:hasedon2@gmail.com
連絡先:080-4383-1633
※HP更新しました。👉
<http://hasedon.info/>

新年おめでとうございます。



新しい年を迎えていかがお過ごしでしょうか。昨年は元日に能登半島地震が発生しました。横須賀市では、年度当初の予算において震災対応を軸にした予算編成をし、議会においても地域防災計画検証特別委員会を開催するなど、防災に重点を置いた一年となりました。へびは脱皮することから、「巳年」は新たな価値を創造する年ともいわれます。多くの市民・皆様にとって、新しい年が、有意で

ありますよう祈念いたします。

昨年は、私自身が病気を患い、議会をお休みさせていただき7月に入院・手術・療養を致しました。幸い経過は良好で、9月より議会復帰をして活動を再開しています。ご心配をおかけしましたが、健康面では復調しました。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

横須賀市議会12月議会報告

12月定例議会は、11月27日から12月12日までの16日間開催しました。市長から提案された23件の議案と、報告6件、陳情5件を議題としました。主な内容としては、補正予算では、小学校統合に関する通学の安全対策、中学校の教師用指導書・デジタル教材、坂本コミュニティセンター跡地を災害時の応援職員滞在施設および備蓄倉庫として利活用するための事業経費の他、小学校給食調理室の空調設備に3億2,000万円が計上され、全ての議案を可決しました。また、陳情5件は審査終了としました。最後に、行政部門別常任委員会の所管事務調査について調査の経過と結果の報告がありました。

小学校給食室の空調設備

補正額3億2,000万円 市債 ※全額繰越明許

長い間、給食調理員のみなさんから要望のありました給食調理室の空調設備が改修の必要な全小学校で実現することとなりました。3年間の予定で今回の補正予算では、2025年度分として、16校分の経費が計上されました。今後2026年度に16校、2027年度に10校の設置が予定されています。今後、空調設備の工事時期や工事中の対応等、現場との調整が必要となってきます。現場の声を聴きながら進めるよう意見反映していきます。



2024年の報告

★6月議会

6月7日から25日の19日間で6月議会は開催されました。初日から2日間10人の議員が一般質問を行い、市長・教育長に質疑しました。6月議会では、一般会計予算を60億増額するための補正予算が計上され、審議しました。主な内容は、能登半島地震に関連した災害応急作業手当の新設、災害時の情報共有のためのシステム導入等です。これらの審査は各常任委員会で審査され、本会議で全議案可決しました。

また、請願2件、陳情3件の審査を各常任委員会で審査を行い、陳情は審査終了し、
・請願は、全会一致で採択され、教職員定数改善の推進及び教育予算の拡充を求める意見書（三教組提出）、地方財政の充実・強化を求める意見書（議運発議・自治労提出）の2本の意見書を国に提出しました。また、最終日に物価高騰対策に関する補正予算等が提出され、可決しました。

★9月議会

8月29日から10月4日までの37日間で9月議会が開催されました。一般質問は13人が市長・教育長に対して質疑をしました。前半は37件の議案を審議し、陳情6件を審査しました。「鈴木敏夫とジブリ展」実施結果に伴う補正。横須賀市立総合医療センターに関する条例改正、小学校の統合等に伴う条例改正、がん克服条例中改正に伴う議案提出や避難所用の携帯トイレの買入の議案等の審査を行いました。▼後半は2023年度の決算審査を行い執行部所管に対して質疑を行



いました。また、議会基本条例検証特別委員会、地域防災計画検証特別委員会も開催され中間報告の審査も行いました。また、最終日には、本会議で採決され、全議案が可決しました。

「日本被団協のノーベル平和賞受賞」に想う



世界各地で戦乱が絶えず、混沌とした状況下で暴力の連鎖が続いています。▼そのような中、昨年12月10日、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したという嬉しいニュースがありました。▼「あの焼け付くような熱さは、これまで忘れたこともないし、これからも忘れることはないだろう」。長崎で被爆し、背中一面に大火傷を負った谷口稜曄（すみてる）さんの言葉と、その背中への火傷の映像が、私の記憶に蘇ってきました。▼私が20代の頃、国連神奈川県協会主催の「ピース・トレイン」という平和学習ツアーに高校生や留学生の引率として参加し、長崎を訪れた時のことです。谷口さんをはじめとする被爆者の皆さんから直接お話を伺い、長崎原爆資料館で数々の遺品や写真を目の当たりにし、核兵器の恐ろしさと平和の尊さを学びました。その時の記憶は、40年の時を経た今でも鮮明です。▼今回の受賞は、日本被団協の長年の活動と国際社会への訴えが評価されたものですが、世界では核兵器の脅威が深刻化しています。被爆者の方々の高齢化が進む今、平和のバトンを未来へ繋いでいくことが重要です。▼核兵器廃絶と世界平和の実現は、労働組合の理念とも合致しており、今後も三教組をはじめ、地域労働組合とともに活動を続けていかなければなりません。本年も平和な社会が実現することを心より祈念いたします。